

平和堂 (コード 8276)

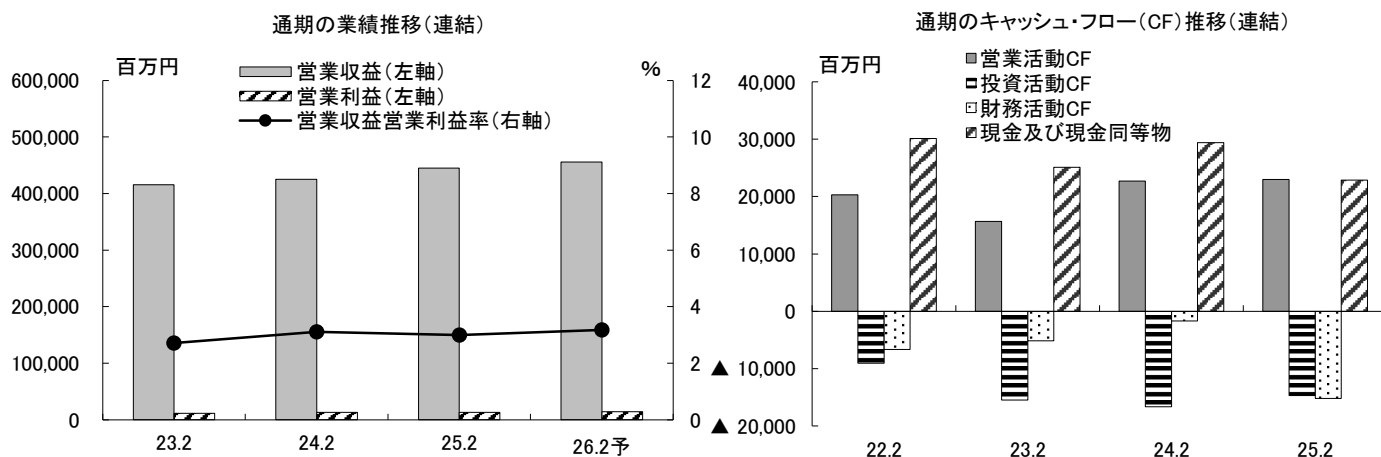
◆通期業績推移(連結) (26.2 予は会社側発表値)

決算期	営業収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
24.2	425,424	13,257	129.4	42.0	22,699	▲16,649	▲1,692	29,426
25.2	444,898	13,360	209.1	予63.0	22,973	▲14,646	▲15,167	22,881
26.2予	456,000	14,500	217.1	66.0	—	—	—	—

◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (26.2 予は会社側発表値)

決算期	営業収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
24.2	207,960	6,386	78.7	19.0	16,742	▲7,726	▲1,065	33,111
25.2	216,645	6,306	88.2	30.0	14,206	▲6,502	▲10,575	26,937
26.2予	221,000	7,100	114.1	33.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年2月期の業績概況…25年2月期の連結業績は、「平和堂(中国)」が不採算事業からの撤退などによって減収となったものの、グループ中核企業の平和堂などが好調に推移したことから、営業収益は前年に比べて約5%増えた。一方、平和堂単体において、競合店(ディスカウントストア、ドラッグストア)への対抗上、生鮮食品を中心に頻度品の戦略的な価格強化(値下げ)を実施したことによる粗利益率の低下(前年26.8%、当期26.3%)などから、連結全体での営業利益は微増となった。

当期の業績は、営業収益4,448億9,800万円(24年2月期比4.6%増)、営業利益133億6,000万円(同0.8%増)、経常利益146億3,900万円(同1.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益107億2,700万円(同58.1%増)となった。特別損失(24年2月期は約41億円。うち約13億円が24年1月に発生した能登半島地震関連)が当期は約12億円に減少したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は大きく増加した。

連結業績の主体である平和堂単体においては、営業収益4,036億8,600万円(同6.0%増)、営業利益103億2,600万円(同5.8%減)、経常利益121億600万円(同1.8%減)、当期純利益88億3,100万円(同60.3%増)となった。以下、既存店において、売上高は全店ベースで3.7%増、食品で4.3%増。客数は全店ベースで2.8%増、食品で3.6%増。客単価は全店ベースで0.8%増、食品で0.7%増。買上点数は全店ベースで1.6%減、食品で2.1%減。一品単価は全店ベースで2.5%増、食品で2.9%増となった。部門別売上高では、食品のうち生鮮食品が5.1%増、一般食品が3.5%増となったほか、衣料品が1.5%減、住居関連品が0.3%増などとなった。部門別の

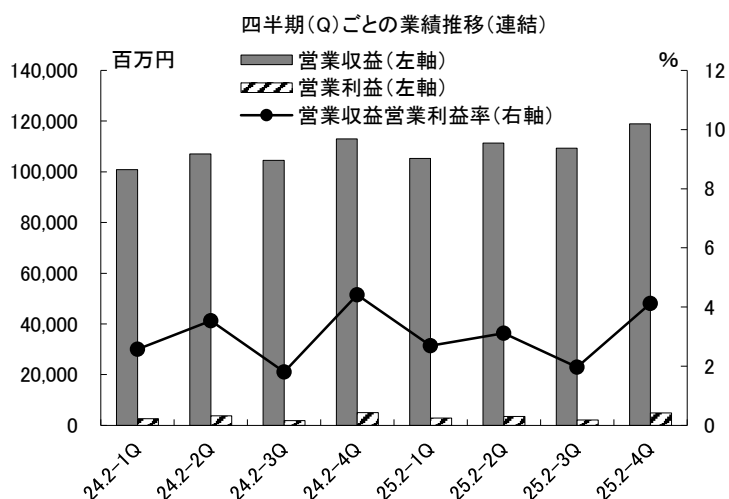
粗利益率では、食品が 26.4%（前年は 27.2%）に低下し、うち生鮮食品が 26.5%（同 27.7%）、一般食品が 26.3%（同 26.7%）に。また、衣料品が 36.9%（同 37.0%）に、住居関連品も 27.4%（同 27.8%）に低下した。

当期中の新店及び改装の実施は、新店が平和堂日進香久山店（日進市）、フレンドマート茨木平田店（茨木市）、フレンドマート長浜祇園店（長浜市）、平和堂知多店（知多市）、平和堂守山小幡店（名古屋市）。また、改装がアル・プラザ茨木（茨木市）、アル・プラザ鶴見（大垣市）、アル・プラザ津幡（石川県河北郡）、アル・プラザ小杉（富山県射水郡）、アル・プラザ水口（甲賀市）、アル・プラザ守山（守山市）、アル・プラザ栗東（栗東市）となっている。

連結業績におけるキャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末の現金及び現金同等物残高は 228 億 8,100 万円（24 年 2 月期末比 22.2%減）となった。営業活動による CF は、税金等調整前当期純利益 152 億 1,800 万円（24 年 2 月期比 44.5%増）、減価償却費 131 億 7,000 万円（同 6.0%増）、売上債権の増加額 16 億 4,600 万円（同 41.4%減）、法人税等の支払額 41 億 1,700 万円（同 10.0%増）などから、229 億 7,300 万円の収入（同 1.2%増）となった。投資活動による CF は、有形及び無形固定資産の取得による支出 161 億 7,600 万円（同 16.0%減）などにより、146 億 4,600 万円の支出（同 12.0%減）に。財務活動による CF は、長短借入金の借入れ及び返済による差引支出額 78 億 3,000 万円（24 年 2 月期は 7 億 3,000 万円の収入）、自己株式の取得による支出 45 億 3,500 万円（同 100 万円未満）、配当金の支払額 27 億 4,900 万円（24 年 2 月期比 24.8%増）などから、151 億 6,700 万円の支出（同 796.4%増）となった。

26 年 2 月期の業績見通し…今期の業績見通しについては、連結では営業収益 4,560 億円（前期比 2.5%増）、営業利益 145 億円（同 8.5%増）、経常利益 156 億円（同 6.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 108 億円（同 0.7%増）。単体では営業収益 4,250 億円（同 5.3%増）、営業利益 117 億円（同 13.3%増）、経常利益 134 億円（同 10.7%増）、当期純利益 102 億円（同 15.5%増）となっている。単体の既存店売上高は上半期で前年同期比 2.9%増、通期で同 2.4%増が見込まれており、今期に入って 3 月度は、売上高は前年閏年影響により 2.4%の押し下げ要因があったにもかかわらず前年同月比 2.5%増と好調に推移。うち食品全体が 3.0%増で、生鮮食品が 3.6%増、一般食品が 2.4%増などとなっている。

新店及び改装の実施・予定は、新店（全てフレンドマート）で八日市妙法寺店（東近江市）が 4 月 18 日にオープンし、下期に堅田店（大津市）、守山店（守山市）、南郷店（大津市）を予定。改装は、フレンドマート能登川店（東近江市、2 月 28 日）、平和堂高富店（岐阜県山県市、3 月 7 日）、アル・プラザ守山（守山市、同 14 日）のほか、上期 2 店、下期 5 店を予定している。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。